カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699

発行人
大水文隆

印刷所
株式会社 藤木博英社
〒850－0852
長崎市万屋町5－13
TEL 095－821－2146
FAX 095－821－2148

わたしがあなたがたを選んだ

ヨハネ15・16

2015年に叙階の節目を迎える司祭は、60周年（ダイヤモンド祝）は大阪の安田久雄名誉大司教を含む21人、50周年（金祝）27人、25周年（銀祝）27人。長崎教区内では次の方々。

ダイヤモンド祝

ピオ　中島優神父

略歴　コンベンツアル聖フランシスコ修道会司祭。1928年4月22日五島市岐宿町生まれ。4月23日水ノ浦教会で受洗。

45年4月聖母の騎士修道院入会、志願着衣。同年10月修練着衣。47年10月聖母の騎士修道院で有期誓願。51年4月東京・聖ボナベンツラ神学院で終生誓願。55年1月6日本河内教会で司祭叙階。同年7月兵庫・仁川修道院、57年4月聖母の騎士学園、64年4月聖母の騎士学園、聖母の騎士幼稚園園長、65年7月東京・赤羽修道院、68年1月聖母の騎士修道院、本河内主任、73年2月聖母の騎士修道院、聖母の騎士幼稚園園長、82年4月小長井修道院院長、椿原中学校校長、聖母の騎士小学校校長。85年4月小長井修道院院長、88年4月愛知・春日井修道院院長、春日学園理事長、春日マリア幼稚園園長、95年11月大分・由布修道院（静養）、けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会付霊的指導司祭、2005年4月小長井修道院、けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会付霊的指導司祭。

金祝

ペトロ　瀧憲志神父

わたしは20歳のとき洗礼を受けました。キリスト教への回心の「キッカケ」は、故永井隆博士の自叙伝『亡びぬものを』との出会いでした。高校1年の時です。幸いにも、クラスにカトリック信者の生徒が一人いました。彼に、カトリックについて種々、質問したものです。あまりしつこく質問攻めするので、「いっそのこと、一緒に教会に行こう」と言って、教会に連れて行って伝道師に紹介してくれました。

高校2年のとき、公教要理の勉強に週2日通い、クリスマス前に受洗しました。司祭職へと導いてくれたのは、洗礼を授けた主任司祭でした。

1956年、志願者としての生活に入りました。わたしは家族で最初の受洗者でした。修道院でのさまざまな難儀苦労も家族の回心のためにと、耐え忍びました。わたしのために祈ってくれる人は誰も居ないと思っていました。ところが神学院でのミサに侍者として奉仕していたある日のこと、ミサに参加していた近隣の信者たちが、「神学生のために」とミサ後、祈りました。感激のあまり、涙がとまりませんでした。「ああ、わたしのために、祈ってくれている信者がいる」との思いで……。

司祭叙階後も信徒の皆さんの祈りに支えられて、今日の喜びの日を迎えることができました。わたしは、青春時代に一冊の本との出会いで、「亡びぬもの」を見い出しました。

略歴　コンベンツアル聖フランシスコ修道会司祭。1931年5月26日鹿児島県大島郡喜界町生まれ。51年12月15日名瀬教会で受洗。

56年4月聖母の騎士修道院に志願者として入会。57年3月25日修練着衣。58年4月東京・聖ボナベンツラ神学院入学、65年3月27日奄美市名瀬・大熊教会で司祭叙階。67年4月奄美大島へ派遣。80年サバティカル・イヤーで渡米。81年～96年奄美へ派遣。97年5月イタリア・アシジへ派遣。05年4月奄美修道院。09年4月から長崎・聖母の騎士修道院。

銀祝

パウロ　紙﨑新一神父

ガタからのスタート。「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」（Ⅱコリ12・9a）。主は驚くほど弱さの中に働かれました。今はガタガタ。ますます主は働くようです。

略歴　1961年8月8日長崎市生まれ。中町教会出身。90年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年長崎カトリック神学院、94年土井ノ浦主任、99年大野主任、2007年深堀主任、13年植松主任。10年から教区福音化推進部部長兼任。

ペトロ　髙木善行神父（サン・スルピス司祭会）

2月11日午前10時、悪性リンパ腫瘍のため、久留米の聖マリア病院・聖母病棟で逝去。79歳。

1935年2月16日熊本生まれ。54年福岡サン・スルピス大神学院（現日本カトリック神学院福岡キャンパス）入学。58年カナダ・モントリオール大学神学部に編入。61年5月27日モントリオールのノートルダム聖堂で司祭叙階。62年サン・スルピス司祭会カナダ管区（日本地区）に入会、ローマ・聖トマス大学神学部に留学。64年に帰国し、福岡サン・スルピス大神学院の養成者・教授に就任。68年5月～75年3月、85年1月～91年3月には院長を務めた。2000年4月～14年9月まで久留米信愛短期大学学長。9月から病気療養。

髙見三明大司教は「髙木神父様は、日本の教会の復活に多大な貢献をした髙木仙右衛門のひ孫として、6人の姉妹全員が修道女という家庭で信仰を受け継ぎ、司祭養成と子女教育のためにそれぞれ36年と14年半奉仕して司祭職を全うされた方です」とコメントした。

通夜は2月12日午後7時から、髙見大司教司式により日本カトリック神学院福岡キャンパス聖堂で、葬儀ミサ・告別式は13日午前11時から、宮原良治司教司式によりカトリック大名町教会で執り行われた。

ペトロ　葛嶋秀信神父

叙階記念のご絵に書いた《真理のうちに教え導いてください》（詩篇25・5）と、《祈り、愛しているなら、この世での人間の幸福を見出している》との聖ヴィアンネーの言葉に強められながら進みたいと思います。出会ったたくさんの方々への感謝に絶えません。

略歴　1963年4月22日新上五島町生まれ。鯛之浦教会出身。

90年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年大司教秘書、95年ローマ留学、2000年から法務代理、07年島原主任、11年相浦主任。07年から副法務代理兼任。

使徒ヨハネ　中濱繁喜神父

25年間、司祭としての力不足のためご迷惑をかけたことも多々あると思いますが、神様のお恵みと信者の皆さんからの協力・忍耐・祈りに支えられて、今日まで司祭として歩ませていただきました。本当にありがとうございました。これから、少しでも皆さんの役に立てればと思います。

略歴　1963年11月12日五島市生まれ。貝津教会で受洗、水ノ浦教会出身。

90年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年浦上助任、95年中町助任、97年黒島主任、2005年神崎主任、11年大曽主任。10年から教区信仰教育委員会委員長兼任。

使徒トマ　大川好洋神父

神様のお恵みと周りの方々のお祈りのおかげです。一期一会の精神を大切に、また、声にならない声に耳を傾けることのできる司祭でありたいと願っています。これからもよろしくお願いします。

略歴　神言修道会司祭。1961年10月26日新上五島町生まれ。福江教会出身。

90年3月31日、南山教会（名古屋）で司祭叙階。同年オーストラリア管区に移籍。93年帰国（日本管区へ）。同年9月アーノルド小神学院（名古屋）で指導司祭代理、94年4月から長崎南山学園で教鞭をとる。

人事異動・任命

▼教区〔2月7日付〕

山脇　守師
大浦小教区主任代行兼任

日本の信徒発見150周年を記念する3日間

◆3月15日（日）秘密教会跡～浦上教会
13:00 聖母行列①（サンタ・クララ教会跡）
12:30 聖母行列②（聖マリア堂跡）
14:00 記念ミサ

◆3月16日（月）中町教会
16:00 講演　17:00 記念庭園祝福式

◆3月17日（火）大浦天主堂
連続ミサ

ユスト高山右近帰天400年
神戸文化ホールで記念ミサ

高山右近がフィリピンのマニラで没して400年となった2月3日（火）、兵庫県・神戸文化ホールで「神のしもべユスト高山右近帰天400年記念ミサ」が行われ、約2000人が集まった。日本カトリック司教協議会列聖推進委員会主催、大阪大司教区共催。

ミサは19人の日本の司教と多数の司祭が司式し、マニラの大司教ルイス・アントニオ・タグレ枢機卿や、駐日教皇大使ジョセフ・チェノットゥ大司教も列席した。ミサの説教を務めた前高松教区長の溝部 脩司教は、日本のキリシタン時代には聖書を使った霊的指導が盛んに行われていたが、その指導者のうちで第一人者と評されていた右近に倣い、私たちもみことばの深い黙想による日々の生活の刷新、日本の教会の刷新に努めるように、と呼び掛けた。

長崎から駆け付けた信徒の一人は「長崎からマニラに追放された右近、マニラで生まれ西坂で殉教した聖ロレンソ（聖トマス西と十五殉教者）、二人とも信徒で信仰に忠実に生きた模範です。彼らに倣って生きていきたい」と語った。

アレキシオ　白浜満神父

神様の恵みと長崎教区の皆さんに支えられて、この日を迎えることができました。神学校で働いてきたこれまでの日々、力不足の私に忍耐してくださった神学生・神父様方に、感謝とお詫びの気持ちでいっぱいです。少しでもよい養成者になれるよう、これからも応援をお願いします。

アシジのフランシスコ　平本義和神父

少年の心を引き付ける魅力的な司祭に出会い、薫陶を受け、その人生をなぞるような25年を歩んできたような気がします。弱さや貧しささえもみ業に取り込んでくださる神様と、支えてくださった方々に深く感謝します。

略歴　1962年12月2日平戸市生まれ。紐差教会出身。

89年3月17日浦上教会で助祭叙階。同年中町教会付。90年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年西町助任、92年出津助任、95年広島（音楽研修）、97年長崎カトリック神学院、2001年植松主任、07年木鉢主任、13年天神主任。08年から教区典礼委員会委員長兼任。

信徒発見150周年と高山右近列福に向けて
これだけのことは知ってほしい⑬

〝出向いて行きましょう〟
―イエスの命を差し出すために―

教区人権委員会委員長　川口 昭人

1．キリストの心を生きる現場より

「子供たちはボストンバッグ1つに1～2枚の衣類とわずかな身の回り品で入所してきます。ほとんどの若者は中卒、あるいは高校中退という学歴のため安定した就職を見つけるには難しく、男子は肉体労働、女子は夜の仕事しかありません。また生育歴が不幸なためになかなか人間・信頼関係が結べないために周りの人々の誤解を受けやすい子供たちです。」こう話してくださるのは、何らかの事情で家族と一緒に生活することができず、独りで働いて生きていかなければならない若者を支援する「ドリーム・カム・ホーム」の施設長・川井健蔵氏です。彼はキリストの心を心として具体的な活動を捧げておられる方々の一人です。

親を知らず、すぐに乳児院に預けられ独りで生きていくことを余儀なくされた若者が、「生まれてすぐに人生を諦めていた」と漏らすのだそうです。その悲痛な気持ちを乗り越えて自立してしっかり歩んでいこうと、定時制高校や夜間大学に進学する若者がいます。そして彼らはまた、厳しい環境の中へボストンバッグ1つで出て行くそうです。その支えとなり寄り添っていく現場は並大抵のものでないでしょう。スタッフの無力感も絶えないといいます。しかし同じ志で低賃金で奉仕してくださる職員と共に、地道ながら社会の中で福音を実行する教区民の方々がいるということ、そこに私たちも目を向け、より支援する心を抱くことは重要と考えます。

佐世保地区では信徒の有志で、信徒家庭の子供たちの無償奨学支援「ミッション友の会」の活動に取り組んでおり、年に1～2人が進学しています。これは前田万葉大阪大司教が長崎教区司祭の時に立ち上げたものです。この支援を教区全体として数あるミッション校と連携しながら、経済困窮家庭の子供支援につなげられないか委員会では検討しています。

社会の中で苦しい状況にあるのは、若者だけではありません。神から授かった尊い生命は、人生の途上もそして終わりの時まで尊い。県内で精神病院看護師という立場で、キリストの心を生きる信徒の方がおられます。現場を通して、一般社会になじめない若者、成人、そして年配の方々に自分を評価して生きること、尊厳を持って生きることを伝えておられます。彼女もまた、若者の精神的な不安定さは、おおかた家庭環境からくるものと感じ取っています。

精神発達遅滞による粗暴行為などで離島から施設に入所した70代の老人は、幼少時からの聴覚障害もあり、未就学で農業の手伝い以外は家に閉じ込められた生活を余儀なくされていたそうです。当初、施設でも厄介者であった老人に、残された人生の中でいろいろな音がこの世にあることを伝えたいという関わりから始めたところ、老人の心は意欲的に生きていこうと学び始めたそうです。その彼の心がまた周りに対しても穏やかになり、施設のムードメーカーにまで変貌していったのだそうです。そこに人間の未知なる荘厳さに感動すると看護師は語ってくれました。キリスト者として活動する中で洗礼を受けた恵みを味わっておられます。もちろんこの関わりも並大抵の寄り添う姿勢ではないだろうと察します。

現代社会では、今を生きる人間の生命も、生まれ出ずる生命も脅かされています。「新出生前診断の染色体異常結果の97％が中絶」などという報道もよく見られ、絶望的な気持ちにさせられますが、実際に診断を受けることを避ける人々は多いのです。受診率は0.8％以下で、検査の異常結果を受けて2400人のうち110人が中絶しています。しかし納得して中絶を選びながら後悔している親も大勢います。このことを報告してくださった委員は、助産師として悩みの中にある母親の命の育みに寄り添っています。

ダウン症の子供は純粋で優しく、天使のような性質です。育ての苦労はありますが、その子によって喜びをもたらされている家族は多いです。欧米では、子供が障害を持って生まれてくることを恐れるより、社会で受け入れていこうとする精神が育まれていることは、日本でも学ぶべき姿勢だと感じます。カトリックはこうした現実の中で強く胎児の人権を守ろうと、初代教会から訴えていることも忘れてはなりません。

自死で親しい方々を失った遺族の集い「ゆりの会」の方々も地道な活動を続けています。近親者を失った遺族の心には救えなかったという罪の痛みを引きずって生きている方々がいます。震災後、「サバイザーズ・ギルト」ということばも耳にするようになりました。自死のみでなく、震災や不慮の事故で亡くなった親しい人に対して、自分が生き残っていることに、罪悪感や不条理さで、独りで心痛めているのです。

2．耳にしていたことから　み旨を行う中での神の体験へ

難民移住移動者部門の活動など、ここではまだ紹介しきれない活動が人権委員会委員で動いています。教区内には、こうしてキリストの心を心として、社会の中で福音を生きる方々がすでにおられます。信徒の有志で、まずはホームレスや経済困窮者の方々を歩いて見つけていこうとする活動も始まろうとしています。特別なケースを扱っているものとしてあまり目立つこともないかもしれません。しかし委員会を代表して、彼らの活動がより広く教会の活動の一端として知られたらと常々感じています。

信徒発見150周年の節目に、信仰の継承が疲弊しているという消極的な思いがよく聞かれます。確かにそれも重要な課題です。しかし今、キリストの心を現実に生きようとしている方々が、地道に活動していることも忘れてはいけないと思います。ブラジルで聖書学教授として教鞭をとるかたわら、スラム街の人々と聖書の学び合いを実践している長崎出身の宣教師がおられます。スラムに出向きながらヨブ記のみことばを通して神からの強い召し出しを体験したことを話してくれました。「あなたのことを、耳にしてはおりました。しかし今、この目であなたを仰ぎ見ます」（42章5節）。不条理な苦しみに身を置かされたヨブが最後にこう主を賛美してヨブ記は終わります。このみことばの出会いの体験は、貧しくとも豊かにみことばを味わうスラムの人々と接する中で、衝撃的な体験として日々の動機づけになっているそうです。特別な環境でのみことばの体験ではあるでしょうが、私たちも聞いている立場から、関わりながら神を見る体験ができればと思います。それを教えてくれているのは、委員会のスタッフたちであるとも感じています。フランシスコ教皇が「教会から出向いて行こう」と繰り返されるのは、そのような体験が待っていることも含んでいるのでしょう（『福音の喜び』25～33）。

3．すでに動いている「宣教する教会」

「現代の人々の喜びと希望、苦悩と不安、とくに貧しい人々とすべての苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、苦悩と不安でもあります。真に人間的なことがらで、キリストの弟子たちの心に響かないものは何もありません」（現代世界憲章1）。また「教会は、……全人類とともに歩み、世と同じ地上的な成り行きを経験します」（同40）。教会の社会教説は常に貧しい人々、困難な状況に身を置く人々に向けて述べられてきました。昨年列福されたパウロ6世は、人工的に出産制限する世相を強く否定した回勅『フマネ・ヴィテ』で大きな論議の中に立たされながら、カトリックの立場をはっきりと宣言しました。決して単なる権威的にでなく「人間の問題については深い関心を持って」（『ポプロールム・プログレッシオ』13）と訴える姿勢の表れからでした。それは現代の教皇まで受け継がれている教会の姿勢です。「現状維持にとどまることなく、……地上のすべての地域で、『たえず宣教中である』ことを目指しましょう」（『福音の喜び』25）。

長崎コレジオ 最後の卒業式

第13回長崎コレジオ卒業式が、2月14日（土）午前11時から大浦教会において、高見三明大司教司式のもと、み言葉の祭儀の中で行われた。今回が長崎コレジオ最後の卒業式とあって、出席者は特別な思いをもって別れを惜しんでいた。

卒業生は、鹿児島教区・大笠利小教区所属の田代竜之神学生（写真右）と長崎教区・飽ノ浦小教区所属の西田祐尚（まさなり）神学生。2人を送り出すにあたり、高見大司教は「大神学院では、コレジオ生として養成された自覚を持って皆の模範となってほしい」と訓辞を述べ、出席者には「長崎コレジオの役割は終了し、全面的に福岡コレジオに引き継ぐが、神学生養成はこれからも長崎教区にとって重要な使命であることに変わりはない」と語り、祈りと支援を願った。

式後、出席者からの祝福を受けた2人の神学生は、晴れ晴れとした表情で巣立っていった。

純心聖母会初誓願式

2月11日（水）、純心聖母会本部聖堂（長崎市三ツ山町）において、高見三明大司教の主司式により、初誓願式ミサが行われた。家族や会員たちの感謝と賛美の祈りに包まれた中で、一人の修練者が初誓願を宣立した。

高見大司教は説教の中で「誓願者の誕生は、修道会のみではなく教会にとってもうれしいこと。修道者として生きるということは、3つの誓願を守りながら、十字架上まで自分を与え尽くされたキリストに従うことであり、それは神からの恵みなしには不可能な生き方である」と説いた。

ミサ後の祝賀会で里脇幸代修道女は「これまでの歩みは決して平坦な道ではありませんでしたが、多くの方々のお祈りと励ましに支えられてきたことを感謝しています」とあいさつした。

初誓願宣立者
マリア・アウクシリア
里脇幸代（植松）

紙芝居

「むかしの長崎」の作者を探しています

信仰教育委員会の資料の中に、絵と文章が手書きで描かれている紙芝居が見つかりました。日本の信徒発見150周年を記念して、新しく紙芝居を作り、信仰教育に役立てたいと思っています。

そこで、この絵の作者を探しています。ご存知の方や心当たりの方がいらっしゃいましたら、左記までご連絡ください。

信仰教育委員会 委員長
大曽主任　中濱繁喜
TEL 0959-53-1920

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦　幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

交通誘導警備　常駐警備　イベント警備
（有）小田警備保障
警備員募集！
電話 095-856-6524　FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15　代表取締役 パウロ　小田　睦

ご先祖に心より感謝を・・・
材石治明
長崎本店　長崎市城栄町13-1　電話（095）846-3598
大村店　大村市民霊園内　電話（0957）50-3008

日本二十六聖人殉教記念ミサ

2月1日（日）14時から、長崎教区主催、長崎南地区評議会担当による日本二十六聖人殉教祭が西坂公園で行われた。

今年は日本の信徒発見150周年を機に、長崎市によって修復されたばかりの二十六聖人記念碑（故舟越保武氏制作）を前にして、髙見三明大司教主司式、司祭団50人余の共同司式のもと、各地からの巡礼者約2000人が祈りをささげた。

髙見大司教は説教の中で、このミサで記念する日本二十六聖人、殉教400年にあたる高山右近、そして150周年を迎える大浦天主堂献堂と日本の信徒発見との間には、「日本という国を考えさせること」「信仰生活の中での堅忍」「一貫性」という共通点があり、「3つの歴史の点が一つの線でつながっている」と示した。そして「信仰をしっかり持ち、堅忍のうちに一貫して生きることが求められている」と強調、この知恵と勇気の恵みを聖人たちを通して祈るようにと語った。

毎年、早岐教会と合同で巡礼しているという川棚教会（二十六聖人の一人、ルドビコ茨木にささげられた教会）の議長・本田嘉宏さんは、「1年ごと交互に、昨年は川棚教会から東彼杵・乗船場跡までの約6キロを歩き、そこでミサがあげられました。今年は西坂を訪れる年で、皆で30人くらいで来ました。（殉教者たちのことを思うと）今は自由過ぎてこれでいいのかと思うところもありますが、今年もこのようにミサに参加でき、良かったです」と話した。

司祭研修会

「女性部」と「聖体拝領」

2月2日（月）、「婦人会から女性部への移行」と「ミサ中の聖体拝領」の2つをテーマとして、司祭研修会が大司教館で開催された。

第1部では教区本部事務局長の下窄英知師が、女性部移行への経緯を説明。当初、教区評議会承認のみで移行できるとの判断から、司祭団への説明が不足し、小教区に混乱を招いたことを陳謝した。研修は髙見三明大司教、教区女性部代表の深堀茂子氏への質疑応答の形式で進められたが、女性部への移行が円滑でない理由として、移行する目的、すべての女性を対象とする「女性部」の定義、各評議会との関係と活動費、「日本カトリック女性団体連盟」加入や神学生養成の献金への協力などについて、共通理解が欠けていることが指摘された。また、組織に関わる重要な議題が教区評議会総会で取り上げられるときは、主任司祭が出席できる日時を設定してほしいとの要望もあった。教区本部事務局は女性部への移行を、2017年度には完了したいとしている。

第2部では昨年11月30日に発効した『日本におけるミサ中の聖体拝領の方法に関する指針』をテキストとして大司教が講話。この指針は「聖体を受ける際の方法や動作を通して、聖体拝領の意義や聖体に対する信仰と尊敬がしるしとして示されることを明らかにすること、および、信者が不安や混乱なくキリストの御からだと御血を拝領することができるようにすることを目指している」（1）。

研修会では主に、原則として立って聖体拝領すること、司祭は聖体を示しながら「キリストの御からだ（御血）」と言い、拝領者は「アーメン」と応えていただくこと、また両形態による拝領の場合、司式者と共同司式者以外は、①祭壇上に置かれたカリスを自分の手で取って拝領しない、②御血に自分で聖体を浸して拝領しない、③カリスから拝領した後、拝領者が次の拝領者にカリスを手渡さない、などが確認された。その他『聖体授与の臨時の奉仕者に関する手引き』『司牧に関する法規の手引き』が配布され、精読し司牧に活用するようにとの大司教の勧めをもって、研修会は終了した。

キリスト教一致礼拝

長崎・第4回を中町教会で開催

1月24日（土）14時、カトリック長崎大司教区と長崎キリスト教協議会が主催する「第4回長崎キリスト教一致礼拝」が中町教会で開催された。

この集いは、1月18～25日に全世界で行われる「キリスト教一致祈祷週間」に合わせ実施されたもの。礼拝は、長崎教区から髙見三明大司教と神父ら、キリスト教協議会からは聖公会、日本基督教団などの聖職者ら12人が祭壇に上がり、式が進められた。

日本基督教団長崎教会主任牧師である福田英樹師は、「私たちは神様に招かれてここに集った」と説教し、感謝の思いを分かち合った。また終わりのあいさつとして、髙見大司教が教会の分裂の歴史と教会一致の動きについて語り、「これからも希望を持って心を合わせ、一致に向かって歩んでいきたい」と話した。最後に、日本基督教団長崎古町教会の藤井清邦牧師は「日本の信徒発見150周年」を迎えるカトリック教会へのお祝いの言葉を述べた。

礼拝終了後、参加者は中町教会の境内でお茶とお菓子を囲み、交流の時間を持った。

大槌ボランティア募集

長崎教区評議会は東日本大震災復興支援に関して、大槌ベースキャンプ（岩手県上閉伊郡大槌町）へのボランティアを引き続き募集し、協力を呼び掛けている。

- ●4月9日(木)～15日(水)（3／25締切）
- ●5月14日(木)～20日(水)（4／29締切）
- ●6月11日(木)～17日(水)（5／27締切）

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局（松尾）まで。

FAX TEL 095-842-4450
095-842-4460

貴い犠牲に感謝して

クリスマス募金・一菜募金報告

昨年12月1日から今年1月15日にかけてクリスマス募金の協力を呼び掛けた長崎教区評議会は、2月2日までに集まった約476万円を、昨年度の繰越金と合わせて次の被災地や困窮者の支援のために送金した。

▼長崎ホームレスを支援する会50万円▼長崎ダルク50万円▼福岡美野島司牧センター50万円▼山友会（東京）50万円▼大阪旅路の里（釜ヶ崎）50万円▼東日本大震災50万円▼青少年自立援助・ひまわり塾援助50万円▼声の奉仕会・マリア文庫10万円▼聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会10万円▼生活困窮者への支援として教区福音化推進部へ82万円▼長崎カトリック聴覚障害者の会（長崎と佐世保）各10万円▼モナの会10万円▼入管収容者への支援10万円▼シナピス会10万円▼一粒の麦の会10万円。

また同評議会は、一菜募金の支援先を次のように決め、送金した。

▼水主町教会信徒の火事15万円▼広島土砂災害200万円▼城山教会信徒の火事15万円▼植松小教区（対馬）信徒の火事15万円▼宝亀教会信徒の火事15万円▼浜串小教区・高井旅教会信徒の火事15万円▼アフリカ・コンゴ・平和学園校舎増設の資金援助50万円。

お告げのマリア修道会総会

1月24日（土）から31日（土）、お告げのマリア修道会第8回総会が、代議員38人の出席を得て長崎市小江原の本部で行われた。今回は、会長・総顧問選挙および課題審議が目的で、山内清海師司式による開会ミサに始まり、審議・選挙・審議、髙見三明大司教司式の閉会ミサで終了。

27日には選挙が行われ、左記の会員が選出された。

会長	久志ハル子
副会長	下窄　優美
総顧問	梅木　公子
〃	中村　益子
〃	赤尾津奈恵

審議はイエズス会の菅原裕二師（ローマ教皇庁立グレゴリアン大学教授・教会法）の同伴を得て、新会期に取り組むべき課題について真剣に討議が行われた。総会中、「ホットニュース」として一日の様子が各修道院へファックスされ、修道院からは応援メッセージが届けられ、支え合いを実感しながら進められた。

会長・総顧問と共に、決議事項の実現に会員一同心を一つにして取り組むことを確認し、感謝のうち閉会した。

お告げのマリア修道会

2015年度 聖書講座・信仰養成講座のご案内

教区生涯養成委員会

- ◆場　所　カトリックセンター2階講堂
- ◆聴講料　聖書講座 13,000円　信仰養成講座 16,000円　＊聴講もできます（1科目 1,000円）
- ◆申込期間　2015年3月16日（月）～4月15日（水）
- ◆申込先　〒852-8113 長崎市上野町10-34 生涯養成委員会　Tel.095-841-7731　Fax.095-841-7732

聖書講座（木曜日 19:00 ～ 20:30）

月日	講師
4月16日	髙見三明大司教（概論）
30日	川口昭人師
5月7日	下窄英知師
14日	生涯養成委員長
21日	川口昭人師
6月4日	下窄英知師
11日	髙見三明大司教（公開講座）
25日	生涯養成委員長
7月2日	下窄英知師
9日	川口昭人師

月日	講師
7月16日	生涯養成委員長
9月10日	下窄英知師
17日	川口昭人師
未定	澤田豊成師（公開講座）
10月8日	下窄英知師
15日	川口昭人師
29日	生涯養成委員長
11月5日	下窄英知師
12日	川口昭人師
19日	生涯養成委員長

【テーマ】創世記と出エジプト記　【テキスト】聖書

【講師が担当する内容】

- ・髙見大司教：モーセ五書概論（創世記・出エジプト記）
- ・澤田豊成師：出エジプト記（後期公開講座）
- ・川口昭人師：創世記1～25章
- ・生涯養成委員長：創世記26～50章
- ・下窄英知師：出エジプト記

信仰養成講座・A年度（土曜日 19:00 ～ 20:30）

月日	科目	講師
4月18日	神を知る道・神の啓示	山川　忠師
25日	神の啓示の伝達・聖書	
5月9日	日本の教会史①	Sr.片岡瑠美子
16日	神への人間の応答	下窄英知師
23日	信条・唯一の神	
6月6日	日本の教会史②	Sr.片岡瑠美子
13日	全能の父なる神	岩本繁幸師
20日	創造主	
27日	人　間	岩下和樹師
7月4日	日本の教会史③	Sr.片岡瑠美子
11日	堕　罪	岩下和樹師
9月12日	イエス・キリスト（受肉）	頭島　光師
19日	イエス・キリスト（死と復活）	
26日	日本の教会史④	Sr.片岡瑠美子
10月3日	聖　霊	中野健一郎師

月日	科目	講師
10月10日	教　会	中野健一郎師
17日	教会の特徴	川端志範師
24日	キリスト者	
11月7日	聖徒の交わり・マリア	谷脇誠一郎師
14日	罪のゆるし	
21日	からだの復活	眞浦健吾師
28日	永遠のいのち	
12月5日	第二バチカン公会議と近代日本の教会	髙見三明大司教
12日		
1月9日	要理教育	信仰教育委員長
16日		
23日	小共同体	生涯養成委員長 長野宏樹氏
30日		
2月6日		
3月6日	修了式	

【テーマ】信仰宣言・信仰の歩み ――より良く信仰を宣言し、キリスト者として歩むために

【テキスト】カトリック教会のカテキズム

下五島地区合同堅信式

堅信をゴールではなくスタートに

1月18日（日）、福江教会で下五島地区合同堅信式が行われた。8小教区合わせて中学生15人、成人4人の計19人が高見三明大司教によって堅信の恵みにあずかった。

ミサの説教で高見大司教は、混乱する世界情勢に触れて、「今日まで一生懸命学んできたことは、キリストの愛と平和を実行し、伝える人となるためです。どうぞたくさんの人の幸せに貢献してください」と受堅者を励ました。

ミサの終わりに、受堅者代表の葛島奈保さん（奈留小教区・中学2年生）は、「信徒発見150周年を迎える日本の教会を支え、迫害に耐えた先祖の力強い信仰に倣い、キリストの証人となります」と決意を表明した。また保護者代表で感謝のあいさつを述べた鍋内誠次さん（浦頭小教区）は、「親子と共にこの秘跡をゴールにではなく、スタートにして頑張ってまいります」と、家族で成長することを誓った。

映画「うまれる」上映会

2月8日（日）カトリックセンターにおいて、教区家庭特別委員会・青少年委員会共催による映画「うまれる」（豪田トモ監督）の上映会が11時と14時の2回行われ、約350人が集った。

小雨交じりの寒い日にもかかわらず、佐賀県唐津市や佐賀市、県内では佐世保地区からも幅広い年齢層の参加があり、いのちへの関心の高さが示された。

1回目は工藤秀晃師（青少年委員長）、2回目は古木眞理一師（家庭委員長）のあいさつから始まり、「いのちの尊厳」について学ぶ一日となった。映画の中には、体外人工受精を肯定するようなナレーションや産婦人科医のコメントもあったが、それらについては教会の教えに反するものであり、倫理的に受け入れられない、との説明があった。上映後には日本カトリック司教団メッセージ『いのちへのまなざし』（2001年）の紹介と販売が行われた。

みことばにふれて 115

中野健一郎神父（浦上教会）

「食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。」（ルカ15・23～24）

昨年11月、映画俳優、高倉 健さんが亡くなられました。1977年公開の映画『幸福の黄色いハンカチ』は、刑務所に入り離婚まで考えた夫と、夫の帰りを待ち続けた妻の物語です。共演した武田鉄矢さんにある夜、健さんは「この映画のテーマが分かるか」と尋ねました。「分かりません」と答えると、健さんはこう言いました。「『お帰りなさい』だ。家に帰って、扉を開けて、『お帰りなさい』の声がひとつする。それが人生でどれほど幸せかを山田洋次は描きたいんだ。おまえもやがて分かる」と。

居場所が分からなくなり、悩むときが人にはあります。私が大学生の頃住んでいた寮の舎監だった神父様は、夏や春の休みに、長崎が好きで度々いらしていました。社会人の頃、大神学校に入学することを悩み、会いに行くと、多くの助言をいただきました。この神父様は新井 満の『苺』という小説にT神父として登場し、「神は直線を描かない」という言葉を残しています。「人生は山あり谷あり、ジグザグしたり迂回したり…。幸福だけで出来ている道がないのと同様、不幸だけで出来ている道もないこと」と。

私たちは紆余曲折、七転八倒しながら、この地上で旅を続けています。その目指すところは、本当の安らぎと幸いの待つ、天のお父さんの懐です。「放蕩息子のたとえ」（ルカ15章）は「慈しみ深い父の物語」と呼ばれますが、息子は財産を分けてもらうと家を離れ、父との絆を自ら断ちました。良い人間に更生したのでもない、ただただ自分の惨めさを知った息子。その息子の帰りを、お父さんは片時も絆を切らず、首を長くして待っていました。

ゆるしの秘跡は、このお父さんの元に帰ることのできる、恵みの機会です。神さまと私の間につながる糸は、罪を犯すと断ち切られます。しかし赦されて糸がもう一度結び合わされると、神さまと私の距離は縮まり、結び目は太くなります。逆説的ですが、何度も繰り返されるたびに、ますます神と私の距離は縮まり、絆の糸はますます太くなっていきます。

「回心」はギリシャ語で「メタノイア」。5文字を逆さまに読むと？　この四旬節、多くの方が洗礼の恵みに気づき、父の家に帰る幸せに導かれますように。

（次回から江夏国彦神父）

平和メッセージ＆コンサート

教区平和推進委員会主催、恒例の〝教皇フランシスコ平和メッセージ＆コンサート〟が2月11日（水）の午後、カトリックセンターホールで開催され、400人以上が参加した。

岩崎晋吾師（浦頭小教区主任）による「教皇フランシスコ平和メッセージ」講演では、今年のメッセージのテーマ「もはや奴隷としてではなく、兄弟姉妹として」が取り上げられた。岩崎師は、人を所有物とするエゴの中で生み出される現代の奴隷、その事例として労働者と移住者を挙げ、「教会は、社会の中で貧しい人々の小さな声を敏感に受け止め、出向いていくべきである」と指摘した。

また昨夏行われた沖縄平和学習に参加した高校生が、対馬丸や高江ヘリパッドなどについて報告、「無関心であってはいけないと感じた」と感想を述べた。

〝神父さん〟、シスターそして小中学生によるコンサートでは、満員の会場に美しい歌声が響いた。最後に高見大司教以下、参加者全員で「花は咲く」を合唱した。

人

ブラジルで人々とみことばを分かち、共に歩む

中ノ瀬重之神父

「聖書は生活の中に入っていく、いわば大きなドアのようなものです。」ブラジル南部サンパウロにある神言修道会聖書センターの所長を務め、多忙な毎日を過ごす。勉強会のため地方に行くことも。北部バルサスでは年2回、各地から集まった人々が寝食を共にし、みことばを味わう。ブラジルの基礎共同体は、聖書を読み、現実を見て、実践するという3つの段階をたどり、常に聖書と現実を照らし合わせている。

1978年、25歳の時、同修道会ブラジル管区の呼び掛けに応じて現地の神学校に編入。ブラジルと日本とでは社会環境がまるで違っていた。「軍事政権下、労働者のストライキが始まりました。そのたびに授業は中断。神学生がストに参加し、労働者のため食糧を集めようと車で市場に駆け付けていました。最初はその行動が理解できず、学長も先生も許可していることに対して『なぜ』と思った。先生に言わせると、『社会（経済学）が分からないのにお前はどうして倫理（倫理学）のことを言うのか』だった」と感じ、キリスト者として何をすべきかが次第に分かっていった。不安定な情勢の中、司祭や修道女が殺される現実も見てきた。「人のために生きてこそ人生の本当の喜びがある。人のために生きることによって生かされている」と召命を確信。80年12月28日、司祭に叙階された。

「フランシスコ教皇様はアルゼンチンの基礎共同体を経験した方なので皆、親しみを持っている。貧しい人たちを通して聖書を読む、そんな教皇様ですね」とも語る。8年かけチームで編さんしたポルトガル語の聖書が昨年発行。注解に南米社会が反映され、貧民のための聖書といえる。「ただ、聖霊の働きは止まっていないので、この聖書もいんです。」さらに管区長から、貧民街（スラム）の基礎共同体に行って若者たちと働くよう言われ、共に過ごすうちに社会の在り方が格差を生んでいると知った。そして、「受肉したキリストがここにおられる」と召命を確信。

1カ月の休暇は郷里・神ノ島へ。新しい聖書を手に、「これは実家に置いておこうと思って。祭壇に両親の位牌があるから報告に持ってきました。」

神言修道会、旧約聖書学者。神ノ島出身、62歳。

◆活動紹介ページ
www.cbiblicoverbo.com.br
◆フェイスブック
https://www.facebook.com/shigeyuki.nakanose
◆メール
shigenakanose@ig.com.br

ずれ書きかえないといけない。教会は歴史の中で生きていくものだから」

短信

〈第15回召命祈願ミサ〉

1月23日、高見三明大司教主司式により大浦天主堂で行われた。同ミサは2010年から長崎コレジオと長崎カトリック神学院が合同で実施。長崎コレジオはこの2月に閉校したが、今後も長崎カトリック神学院を中心に続けられる。

〈司祭団マラソン大会〉

1月27日、25人が参加し、五島市で開催された。1位　川原昭如師（大司教館）、2位　鶴崎伸也師（土井ノ浦）、3位　竹谷 誠師（三井楽・貝津）。

ぶどう園

▼第31回オルガンと祈り「信徒発見150年を記念して」　3月17日㈫19時、麹町教会（東京・聖イグナチオ教会）。曲目・聖歌「うわさにさそわれ」他。オルガン・霜坂秀一（同教会オルガニスト）。

▼聖香油ミサ　3月31日㈫10時30分、浦上教会。

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院
●鍋内フイコ様（福江）
故アントニオ鍋内清一様
●道向トミ子様（三井楽）
故トマ道向秀雄様
●永尾マチエ様（福江）
故ペトロ永尾八十吉様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎市被爆70周年記念事業
平和祈念音楽祭 in 長崎
～原爆犠牲者の鎮魂と恒久平和への願い～
男性団員募集
8月2日（日）浦上教会で開催される平和祈念音楽祭で、共に歌ってくださる男性団員を募集しています。連絡は下記まで。
連絡先　長崎県新演奏家協会
℡ 080-4281-5298　森山（夜のみ対応可）
メール nagasakishinen@gmail.com
内　容　「レクイエム」（モーツァルト作曲）
「千羽鶴」（大島ミチル作曲）
主　催　長崎県新演奏家協会
協　力　長崎交響楽団、長崎・セントポール姉妹都市委員会、純心女子学園、浦上教会

中村手造り
ボロニアソーセージ

200g　600g　900g　1400g
上記4アイテムの品揃え
全国配送（有料）いたしております。
お肉のご用命は
㈲ナカムラミートセンター
代表　マリア　中村　夏子
TEL（0956）46-1998
FAX（0956）46-1984
佐世保市柚木元町2401-10

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社　〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ミカエル　溝口美義
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL（0956）47－4380

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎（095）862-2469
長崎市梁川町6-17　岩永ビル